



取手市議会主催・市民との意見交換会開かれる



市民との意見交換会＝5月11日、戸頭公民館（議会事務局提供）

5月11日、戸頭公民館、藤代公民館、議会棟（本会議場と大会議室）で開催された市議会主催意見交換会の参加者は、3会場合わせて約60人。環境とゴミ問題、障害者福祉や防災など、意見・要望はそれぞれ多岐にわたりました。中でも、取手駅西口再開発ビル内への、図書館等複合公共施設の整備方針について、議会と市民を軽視する市の進め方への批判や、それへの議会の対応など活発な意見交換が行われました。

戸頭公民館での質問や意見の一部を紹介します。

▲団地ができて来年50年、商店もシャッターが下りて寂しい、活性化し住みよい地域を作りたい。

▲戸頭地域の7つの自主防災会で協議会を作り防災活動に取り組んできた。大地震に取手市は対応できるのか。地域の自主防災会の活動が大切。

▲地域の道路に穴など傷みがひどい。50年も前に造られた道路の総点検を。

▲西口再開発にまたお金をかけるのか。給食費の無償化など子育て支援をしてほしい。

▲40年前、東急ビルが取手にとって賑わいをつくる起爆剤とされた、それから戸頭地域の下水道料金は4倍になった。今度も再開発事業で賑わいを作るといのが本当か。

市民説明会を10箇所程度行ってほしいなど。次々に意見が出されました。

駅前集中でなく
生活道路整備と防災・暮らしの安心を

市民の声

金権腐敗・自民政治の退場で

希望ある 新しい政治を

円安が物価高を押し上げ、実質賃金引き下げが続き経済格差は一層拡大。裏金事件で噴き出した金権腐敗政治、米軍と自衛隊の一体化など平和国家を投げすてる岸田自公政権への国民の怒りは頂点に達しています。



9条を守り戦争のないアジアと日本を訴える市議団＝憲法記念日前日、5月2日

市民連合は、自民党政治の退場へ、総選挙での市民と野党の共闘を呼びかけています。

「市民と野党の共闘」に全力！

衆院茨城3区市民連合
共同代表 遠藤 俊夫

3区市民連合は、次の総選挙ではぜひ「市民と野党の共闘」を実現したいとの熱い思いで今頑張っています。

5月19日の「市民と野党の懇談会」（藤代公民館、午後2時から）には、日本共産党、立

憲民主党、緑の党グリーンズジャパン、その他政治団体代表者が参加の予定です。

市民の皆さんにもご参加いただき懇談に加わっていただければ幸いです。

衆院3選挙区の補選で野党全勝

自民党の裏金問題が問われた先の衆院3補選（4月28日投開票）では、野党候補がすべて勝ちました。新聞等ではきちんと報道されていませんが、「市民と野党の共闘」が勝利の大きな要因であったことはまちがいありません。カネに汚れ

た自民党政治に退場してもらい、希望ある新しい政治を切り開く絶好のチャンスだと思えます。

3区市民連合は統一候補擁立に向けて、基本政策作りを加速したいと思っています。

農業者と市民の共同で 食と農業を守ります



市議会議員
佐野太一

「取手の食と農業を守る未来プロジェクト」に参加しています。目指す政策は、

1. 農業振興策の推進：家族農業者や兼業農家を支援し、生産性の向上や農業者の収入増加を図るための施策を推進。農業技術の普及や農業者への支援金の増額など。

2. 農業環境の改善：農業における環境保護や持続可能性を重視し環境への配慮を促進する政策を推進。有機農業の推進や農薬の適切な使用など。

3. 地域農業の振興：安心な食材（有機野菜や減肥料野菜など）の生産推進。学校給食を介在とした安心な食材を生産する新規生産者を増やしていく取り組み。

課題は、農業者の高齢化、担い手不足の解消問題と国の政策（農地集約）を促進する取手市政の方針の違いが上げられます。

取手駅西口開発

駅前交通広場・区画整理事業 まもなく終了

新段階へ A街区再開発事業計画

区画整理の検証なく、新計画



まもなく交通広場の整備が終わる（予定）
取手駅西口前＝5月12日撮影

区画整理事業は延々と32年の長期にわたり、事業費はインフラ整備だけでも219億円。巨額の投資で駅前には広くはなったものの、区域内商店のほとんどは廃業か域外へ転出。事業成果は、開発目的にかなったとはいえません。これは、社会現象だけで片付けられません。市は、区画整理（整備工事）終了後の現在仮設交通広場（7000㎡のうち6000㎡）に民間が計画する、再開発ビルの一部フロアを買い受け、「図書館等複合公共施設」の整備を行うと突然発表しました。

A街区再開発

民間マンション＆公共施設 約80億円の公費投入

区画整理の十分な検証もなく、民間事業組合（再開発参加者は20から8権利者に減少）に補助金と公共施設整備を合わせ、約80億円前後の公金を投入する方針です。

取手駅西口前への財政の一極集中が市財政を圧迫し市民福祉と生活基盤整備後回しを繰り返すことがあってはなりません。



民間再開発事業が計画される仮設交通広場（手前A街区）奥が工事中の交通広場＝4月21日撮影

図書館等公共施設整備は市民の声で再検討を

「A街区再開発事業」と公共施設整備事業は、その可否も含め、市民の要求を基にその必要性など十分に検討を尽くすことが必要です。まして、取手図

書館の廃止・移転に及び方針は、教育委員会と図書館及び協議会など専門部署での検討抜きの計画はあり得ません。

タワーマンションと図書館

いつ・だれが・どのように決めたの

取手駅西口は交通広場の整備が間もなく終わり、空いた「A街区」には民間施行でタワーマンションと5階建てビルが建設される計画です。

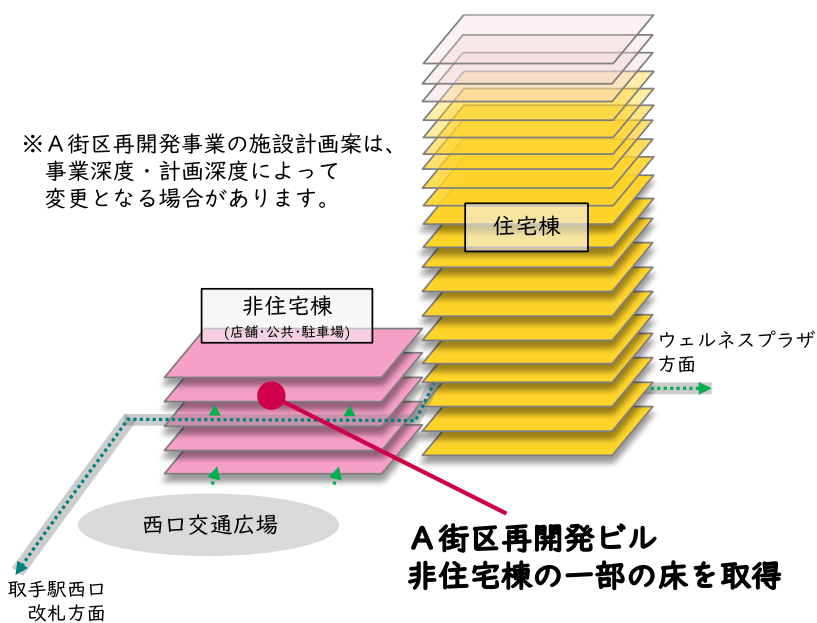
市はこの3月、突然、そのビルに「図書館を核とした複合公共施設」の整備方針を発表しました。しかしその方針は、いつ・だれが・どのように決めたのか、近隣のビルが空いているのになぜ新しいビルの床を買うのか、なぜ施設の中核が図書館なのか、その施設で本当に駅

前が再活性化できるのか、等々、疑問満載です。タワーマンションにしても、建物の老朽化と住人の高齢化が共に進んで廃墟化する可能性が指摘されており、当初は良いとしても将来的には不安があります。

人口減少・社会縮小が叫ばれる今、税金をつぎ込んで行う再開発であるなら、今後の市のあり方を踏まえた持続可能なものであってほしいと思います。

富岡茂雄
(取手駅前開発を考える会)

※A街区再開発事業の施設計画案は、事業深度・計画深度によって変更となる場合があります。



A街区再開発ビル 非住宅棟の一部の床を取得

階数： 1～5階
専有面積 7,100㎡
・店舗・駐車場 2,600㎡ (内訳不明)
・図書館等 4,000～4,500㎡ (市がビルの保留床購入)
非住宅棟 (公共施設・店舗・駐車場)

階数： 2～25階
専有面積 14,000㎡
約200戸
住宅棟

■ 収支計画(概算)

総事業費 143億円

財源	・再開発補助金 38億円 (5割国補助)
内訳	・保留床処分金 105億円 (床売却益)



区画整理事業区域は6.5ha 交通広場 4100～5500㎡に拡張
A街区再開発事業区域 (斜線部) 6000㎡ (当初予定7000㎡)

全体
地上25階建て、延べ床面積 36,000㎡

(2月29日議員全員協議会資料より)